

「よりよい生活」のための多様な価値観に共感し、 「大切な価値」を見いだして生活を創る家庭科の学習

I 家庭科研究の方向性

1 主題設定の理由

先行きが不透明で、予測困難な未来を幸せに生きるためには、社会の変化に主体的に関わることが求められています。「小学校学習指導要領解説（平成29年告示）解説 家庭編（以下解説）」では、家庭科に求められる授業改善の方向性が、次のように記されています。

題材などの内容や時間のまとまりを見通して、その中で育む資質・能力の育成に向けて、児童の主体的・対話的で深い学びの実現を図るようにすること。その際、生活の営みに係る見方・考え方を働かせ、知識を生活体験等と関連付けてより深く理解するとともに、日常生活の中から問題を見いだして様々な解決方法を考え、他者と意見交流し、実践を評価・改善して、新たな課題を見いだす家庭を重視した学習の充実を図ること。

これらの学習過程を実践するにあたり、特筆すべき課題としては、家族の一員として協力することへの関心の低さ、家族や地域の人々と関わることや、家庭での実践及び社会に参画することの不十分さが指摘されてきました。

本校家庭科においても、これらの課題の解決を目指して、前研究において、児童が日常生活の営みに気づき、自ら問いを見いだして、よりよい生活を追究する探究型の学習を実践してきました。児童が生活における課題を自分事として捉えることで、自分が大切にしたいと考える価値に気づき、家庭での実践場面が増えたことが成果として挙げられます。一方で、自分事とするあまり、個としての側面が重視され、他者と協働する生活における、互いのよりよさの尊重においては改善の余地が見られました。上記の点を改善するには、児童が他者と協働する生活における課題を明らかにし、その課題に内在する多様な価値観に気づき、それらに共感し敬意を持つとともに、誰もが納得できる欠くことのできない価値を見極めることが大切だと考えました。その結果、家族や地域の人々と関わったり、家庭での実践及び社会に参画したりすることへ意識が更に高まるのではないかと捉えました。

そこで、研究主題を「『よりよい生活』のための『大切な価値』に気づき、多様な価値観に共感して生活を創る家庭科の学習」と設定しました。

生活をよりよいものへと高めていくことが、生涯を通じた豊かさへとつながります。しかし、よいと感じる尺度は個人で異なり、どの価値を日々の生活に取り入れるかの判断は個に委ねられるため、生活の営みとして位置付かない価値もあります。そのため、誰もが納得でき、欠くことのできない価値を「大切な価値」としておさえることが必要だと考えました。「よりよい生活」のための「大切な価値」の存在を明らかにし、他者と営む家庭及び地域での生活において、他者の考えを尊重し、他者の思いに共感しながら生活を創る児童の育成を目指しました。

2 目指す「新たな価値を創り出す」児童の姿

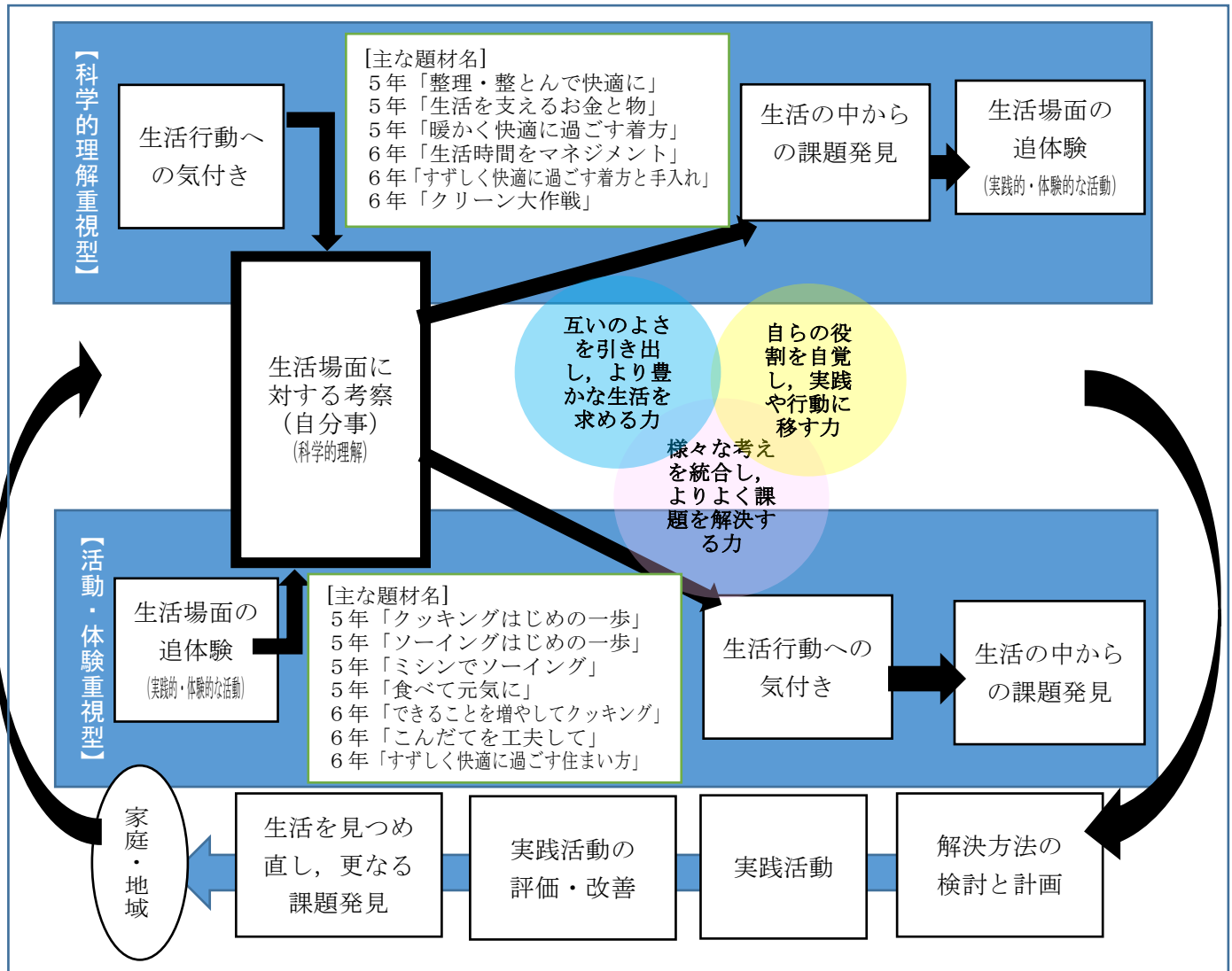
家庭科における「子供が創り出す『価値』」を以下のように押さえました。

①自ら問いをもって、探究することの価値	無自覚な日常生活の営みを自覚し、自らの生活経験や実践的・体験的な活動を通して、自分がよいと感じる価値を見極め、よりよい生活を追究する。
②人と関わり、協働して探究することの価値	よりよい生活に対する多様な価値観に共感し、敬意を持って受け入れることで、新たな価値に気づき、よりよい生活を共に創造する。
③探究する中で得た内容知や方法知の価値	生活の営みにおいて、家庭や地域社会とのつながりを考えながら、自分の役割を自覚し、責任をもって実践や行動にうつす。

II 研究内容の具体

1 「探究型の学び」のイメージ

解説に示された「家庭科，技術・家庭科（家庭分野）の学習過程の参考例」及び「問題解決型学習とラーニング・コンパス（大本，2022）」を基に，本校家庭科における「探究型の学び」のイメージを次のように整理しました。



教師は，児童が生活場面における自らの営みを自覚できるように努めます。児童は，実態に応じて，題材の導入に生活場面の追体験である実践的・体験的な活動をしたり，生活行動への気付きから生活場面に対する考察をして，生活の営みを科学的に捉える経験をしたりします。その後，生活場面に対する考察をすることで，生活の営みが自分事となり，生活の中から主体的に課題を見いだせると考えました。自分事として生活の問題を捉えることで，自らの生活をよりよくしたいという意欲が高まり，探究は加速します。

2 「個別最適な学び」と「協働的な学び」を実現する授業デザイン

本校家庭科では，「個別最適な学び」と「協働的な学び」を次のように押さえました。

◆家庭科における「個別最適な学び」

生活の営みに係る見方・考え方を働かせて，無自覚だった日常生活の営みに行動の根拠を見だし，自分がよいと感じる価値を見極め，よりよい生活を追究する。

◆家庭科における「協働的な学び」

よりよい生活に対する他者の価値観に興味をもち，他者の価値観に対する敬意を伝え，多様な価値観を共感的に受け入れて，自分と相手の納得解から新たな価値に気付き，よりよい生活を共に創る。

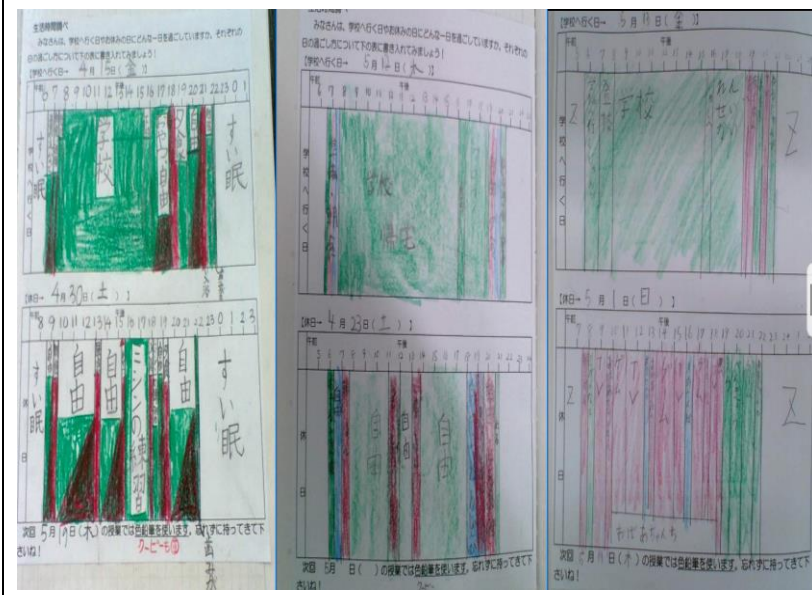
《「個別最適な学び」を支える、生活場面の追体験（実践的・体験的な活動）の工夫》

無自覚だった日常生活の営みに、行動の根拠を見いだすには、なぜその行動をし続けるのかを科学的に理解することが必要です。そのため、探究型の学びの学習過程に位置付く「生活場面の追体験」において、①生活の数値・可視化、②生活場面の科学的理解、③自己の生活や行動の客観視等の活動を位置付けます。

○「生活場面の追体験」における学習活動

①生活の可視化

【実践例：6年「生活時間の使い方」】



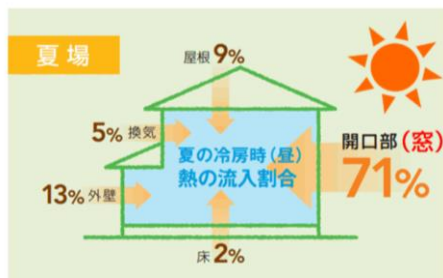
左の記録は、児童が行った生活時間調べの結果である。児童は、授業前に家庭において、休日と平日の生活時間調べを行い、授業内で色分けをした。その結果、時間の使い方の特徴に気付いた。

色分けすることにより、どの時間の使い方が多いのかが視覚的に分かり、比較もしやすかった。また、少ない時間（家族と過ごす時間や家族に協力する時間）も分かりやすく、課題意識を持ちやすかった。

②科学的理解

【実践例：6年「すずしく快適に過ごす住まい方」】

夏場に窓から入ってくる熱の割合



左の図は、暑い季節に、室内が暑くなる原因を科学的に示している。暑さの原因である太陽の光が住宅内にどのように伝わるのかを割合で示した図によって、児童は、科学的に理解することができた。窓から入る熱を減らすことで、住宅内部の温度上昇を緩やかにすることができることを理解し、窓から入る熱を遮る工夫を考えた。

③自己の生活や行動の客観視等

【実践例：6年「できることを増やしてクッキング」】



左の写真のように、児童は自分がいためる調理をする様子を自分で撮影した。自分の調理の様子を動画や写真で記録している。自分の調理の様子を動画で振り返ることは、行動を客観視することにつながった。調理行程を動画で記録したことにより、実際の切り方やいため方を客観的に見ることや、他者の調理方法との違いについて気付くこともできた。なお、自分の調理の様子を動画や写真で振り返ることは、5・6年生共に全ての調理実習で行っている。

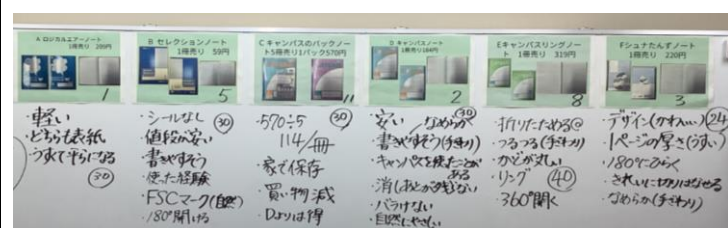
《「協働的な学び」を支える、大切な価値に気付くための話し合いの場の設定》

納得解を見いだすことにより、新たな価値を基に、よりよい生活を共に創るよさに気付くことができます。そのためには、相手の考えに対し、理解できたものや、更に知りたいと思ったものを中心として話し合うことが必要です。そこで、自分がよりよいと感じたものとその根拠を他者に的確に伝えるために、写真やグラフ等の資料を用いて説明したり、テキストカード等の機能を用いて他者の知る機会を設けたりするなど、一人一人が他に伝えたいタイミングに合わせて話し合いの場を設定しました。

○一人一人が他に伝えたいタイミングに合わせた話し合い活動

①写真や資料を用いた説明

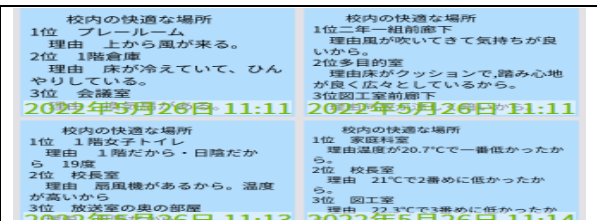
[実践例：5年「生活を支えるお金と物」]



児童が一人一人の生活実態や価値観に応じて、ノートの購入を計画する学習。購入の決め手となる視点は一人一人異なっていることを知るだけでなく、どの視点にもよさがあることに気付くことができた。

②テキストカードの機能の活用

[実践例：6年「すずしく快適に過ごす住まい方」]



児童一人一人が夏に快適だと感じた場所と理由を整理する学習。ロイロノート・スクールの提出箱の機能を活用したことで、同じ場所を快適だと挙げていても、明るさや通風、温度、湿度など異なる理由で快適だと感じていることに短時間で気付いた。

3 子供が新たな価値を創り出すための振り返りの工夫

家庭科の学習内容は毎日の生活の営み全てと関連しています。それゆえに、営み一つ一つについて熟考することのないまま、日々の生活を送っていることも考えられます。そこで、一つ一つの行動ごとに、振り返りを記述することで、日常生活の営みに対する考え方を整理できると考えました。本研究においては、同じ営みに対する考え方や行動の変化を読み取れるように、ポートフォリオ形式で振り返りを蓄積しました。

○題材ごとに振り返りをまとめた1枚ポートフォリオ



学習内容(実験的・体験的な活動、生活行動の見直しなど)によって考えたことを3点の内容で記述しました。

- ①自分が重視した考え方(上記 _____ ①)
- ②友達が重視した考えを聞いて(上記 _____ ②)
- ③さらによりよい生活にするための考え(_____ ③)

自分の考えを整理してから、友達の考えに対する自分の思いを記述することで立場が明確になります。最初は対立的な立場であっても、他者の主張の中で自分の考えに取り入れられそうなどところを見だし、その考えを振り返りに記述することで、新たな価値を創り出すときに役立てることが出来ます。

Ⅲ 研究実践

5年生実践 あたたく快適に過ごす住まい方

実践のテーマ：「快適」に対する考え方に共感することで、

冬を快適に過ごす工夫を理解する学習

1 研究授業のねらい

本題材は、B「衣生活（6）快適な住まい方」及びC「消費生活と環境（2）環境に配慮した生活」を基に構成しました。北海道における厳しい冬の住まい方を取り上げ、停電の現状や全国的な節電対策、暖房機器等の電力消費量と持続可能な社会の構築との関連を身近な問題として扱い、SDGsの目標13（気候変動に具体的な対策を）を中心として、自分の生活が環境に及ぼす影響に気付きながら、快適な住まい方を学ぶことをねらいとしました。実践的・体験的な活動を繰り返し行い、数値やデータを取り入れながら、科学的な理解につなげる題材構成（活動・体験重視型）にし、暖房機器等の設定温度が環境に与える影響や、寒い季節を快適に過ごす方法を体験的に理解する場を設けました。さらには、暖房機器のある部屋とない部屋を体験できるようにしました。

本時では、実践的・体験的な活動を通して児童が考えた冬の住環境に対する考え方を話し合い、よりよい住まい方について自分の考えや友達の考えの違いに気付き、他者の考えに共感し、共に生活を創ろうとする態度を育むことをねらいとしました。

2 題材の指導計画（5時間扱い）


段階	時間	学習活動（○）と主な学習資料（★）	評価規準【評価方法】
生活場面の追体験 生活場面に対する考察	①	○冬の快適について、生活経験を振り返る。 ★旭川市の冬の気温のグラフと室温の数値 ○学校の中で快適な場所を探し、理由を交流する。 ★2050年日本の天気予報、「冬の節電要請始まる」の動画 「今北海道で電力が無くなったら、私たちは、健康で安全な生活を送れなくなる可能性がある。」 ○冬を快適に過ごすための視点を整理する。 寒い冬でも快適に過ごせる校内の場所を探し、快適に過ごすポイントを考え	知識・技能② 記録に残す評価 【発言・ノート・振り返り】
生活場面の追体験 生活場面に対する考察	②	○北海道で発生したブラックアウトの事実を知る。 ★ブラックアウトの原因（図やグラフ） ○熱中症と凍死の死亡者数はどちらが多いか予想する。 ★熱中症による死者数、凍死者数、凍死の発生場所のグラフ ○北海道の冬に停電した場合を体験する教室に入り環境を確認する。 ○暖房で暖かくした教室入り、教室内の環境を確認する。 ○環境への負荷を数値で確認する。 ★電力使用量、CO ₂ 排出量などの数値 他	思考・判断・表現① 記録に残す評価 【発言・ノート・振り返り】
生活行動への気付き 生活の中の課題発見	③	○停電状態の部屋と暖房機器で暖めた部屋の2つの教室内のあらゆる場所の温度を計測して数値で確かめる。 ○部屋が寒くなる原因や暖かくする方法を考える。 ○安全で快適な住まいのためにできる工夫を考える（調べる）。	知識・技能① 記録に残す評価 【発言・ノート・振り返り】
解決方法の検討 計画・実践	④	○暖房機器等を活用した場合の環境への影響を知る。 ★家庭からの二酸化炭素排出量、世帯当たり年間エネルギー種別CO ₂ 排出量の推移、地方別世帯当たり年間エネルギー排出量 ○住宅の中での工夫を個人で追究する。 ○調べたことから、冬の快適プランを考える。	思考・判断・表現② 【振り返り・発言】※ 主体的に学習に取り組む態度① 【発言・ノート・振り返り】※ ※記録に残す評価
実践活動の評価・改善 課題発見 生活を見つめ直し、さらなる	⑤ 本時	○冬の快適プランを交流する。 ○友達の考えを聞いて、視点について考えたことを話し合う。 ○友達の考えを聞き、再び計画について見直す。 ○学習全体を振り返る。	思考・判断・表現② 記録に残す評価 【振り返り・発言】 主体的に学習に取り組む態度② 【発言・ノート・振り返り】※ ※記録に残す評価

3 本時の学習

(1) 本時の目標

- ・生活を豊かにするために住まい方において環境に及ぼす影響考えながら快適に住まう実践計画を考え、実践を評価・改善し、考えたことを分かりやすく表現する。(思考・判断・表現)
- ・家族や地域の一員として、生活をよりよくしようと、寒い季節における住まい方や環境に配慮した物(暖房機器など)の使い方について工夫し、実践しようとする。(主体的に学習に取り組む態度)

(2) 本時の展開(5時間扱いの5時間目)

学習内容と主な学習活動	研究との関わり・留意点
<p>1 あたたく快適な住まい方の視点と資料を振り返る。 「私達の生活は地球環境と大きく関連し、生活行動が私達の未来に影響を及ぼしていた。」</p> <p>2 課題を確認し、解決の見通しをもつ。 冬の快適プランを交流し、みんなが快適だと感じる生活について考えよう。</p>	<p>・自分の快適の視点だけでなく、みんなが納得する快適が大切であることを確認する。</p>
<p>3 冬の快適プランを交流し合う。</p> <p>【温度】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・断熱シートを使って、窓から入る冷気を防ぐ。 ・暖房の設定温度を下げることで、電力使用量を減らしたい。 <p>【湿度】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・夏の経験から、湿度を上げると暖かく感じるので、加湿器を使ったり、鍋でお湯を沸かしたりして湿度を上げたい。 <p>【安全】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・命を優先して、凍死しないような環境を作りたい。 ・暖房機器を使うときには、空気の汚れを除くためにも必ず換気したい。 <p>【通風】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・サーキュレーターなどで空気を回すことで、早く部屋全体を温められる。 <p>【環境】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ガスやストーブなどCO₂を排出する機器の使用をできるだけ控える。 ・太陽光を取り入れて、有効に活用したい。 <p>4 友達の考えを聞き、計画について見直し、暖かい住まい方について、視点を基に考えを深める。 ※計画について、修正点を朱書きで示す。 「電気が使用できなくなったときのことを想定している考え方にとっても共感できた。電気の使用量を減らして環境に配慮した生活をしたい。」</p>	<p>○「協働的な学び」を支える、大切な価値に気付くための話し合いの場の設定 研究視点2</p> <ul style="list-style-type: none"> ・一人一人のプランを発表する際、発表内容について、どう感じたのかを他の児童に詳しく聞く。うなずいていた児童には、どうしてうなずいていたのか(納得できたところはどこなのか)などを聞く。首をかしげるなど、納得できていない態度の児童には、どの点に納得ができていないのかを聞く。 ・ロイロイロノート・スクールのアンケート機能を用いて、住まい方の視点の中で重視した視点を回答させる。 
<p>一人一人の快適な視点を大切に、環境に配慮して生活することが大切。</p>	
<p>5 本時の学習を振り返る。 ○視点についての自己評価と振り返りを書く。</p>	<p>○子供が新たな価値を創り出すための振り返り工夫 研究視点3</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生活を豊かにするために住まい方に及ぼす影響を考えながら快適に住まう実践計画を考え、実践を評価・改善し、考えたことを分かりやすく表現する。(思考・判断・表現) ・家族及び地域の一員として、生活をよりよくしようと、寒い季節における住まい方や環境に配慮した物(暖房機器など)の使い方について工夫し、実践しようとしている。(主体的に学習に取り組む態度)【ワークシート】

◇授業の見所・本時で願っている児童の姿

考えの交流により、大切な価値に気付く、新たな価値を創り出すよさに気付く児童の姿。

4 授業の実践

探究型の学びのイメージ（活動・体験重視型）

事前調査の結果から、寒い季節に暖かく住まう工夫をしたことはある児童の人数は比較的多いものの、全員ではありませんでした。また、児童が家庭においてしていた工夫の内容を総合的に判断すると、活動や体験が十分ではないと考えられました。そこで、実践的・体験的な活動を繰り返し行い、数値やデータを取り入れながら、科学的な理解につなげる題材構成にすることをしました。

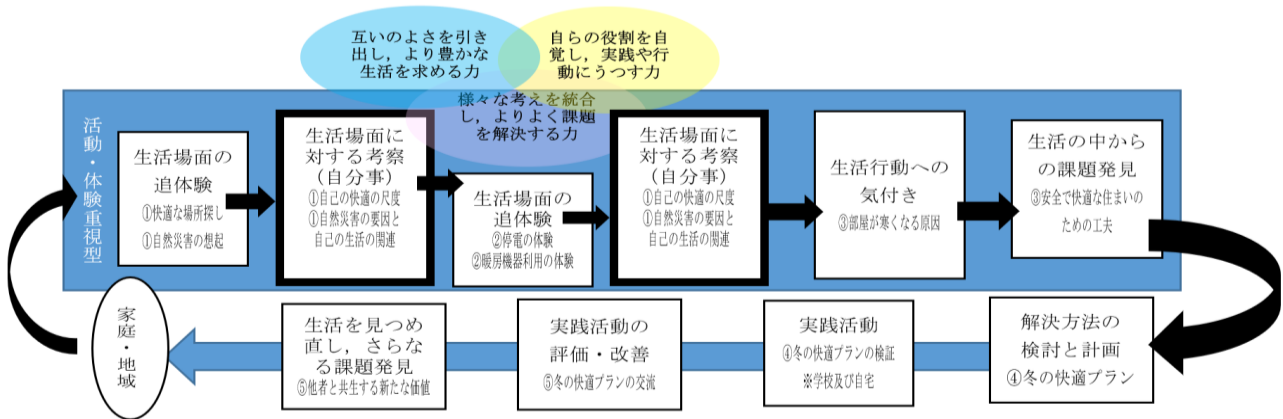
学習過程においては、快適と感じる温度や湿度を数値で可視化することで、生活の中の快適を科学的に理解できるようにしました。また、暖房機器の効果を経験するために、暖房機器のない部屋とある部屋で一定時間過ごす経験をできるようにしたり、それらの部屋を快適にするための実験を行ったりしました。

生活経験と科学的な根拠の理解を繰り返す構成で題材を構成することで、児童は快適な住まい方とはどのような方法かを考えながら、家庭生活での工夫を考えるようになりました。



【校内各所の温度や湿度を測定しながら、快適な場所を探す姿】

〈題材構成〉



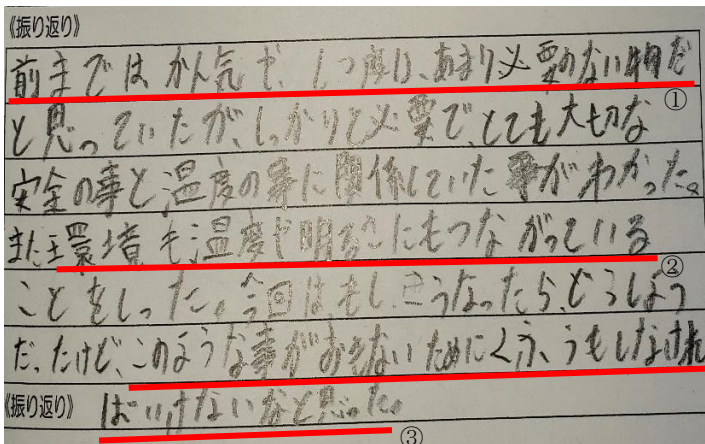
「個別最適な学び」と「協働的な学び」を表現する授業デザイン

話合いの場では、児童一人一人の考えを視点ごとに伝え合う場面を設けました。自分の考えの根拠を伝えたり、他者から自分の考えに対する意見をもらったりすることにより、児童は自分の考えを変えようとする姿が見られました。話合いの後に自分の住まい方に対する考えを変えた児童は全員で、変えた理由は、自分の考えの中に友達の考えのよいところを加えたもの（A児①）や、自分の考えを大きく変更したもの（B児②）など様々でした。

児童一人一人が個として自分の考えを確立した上で話合いの場に臨むことで、明確な根拠をもって自分の考えを友達に伝えることができます。その結果、聞いた相手も相手の考えのよさに気付ける機会が多くなりました。

A児①（事前）	A児①（事後）
<p>暖かく快適に過ごすプラン2024年1月 重視した視点【環境】</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 使い捨てカイロや湯たんぽを使用する ② 靴下の重ね履きや足用カイロで足元を温める ③ ショウガで身体の中から温める ④ スキーウェアやダウンコート、キャンプ用の寝袋なども防寒グッズとして活用する ⑤ 電源がなくても使える暖房機器を用意する 	<p>暖かく快適に過ごすプラン2024年1月 重視した視点【温度・体感】</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 使い捨てカイロや湯たんぽを使用する ② 靴下の重ね履きや足用カイロで足元を温める ③ 太陽光で体を温めたりソーラーパネルで電気を集める ④ スキーウェアやダウンコート、キャンプ用の寝袋なども防寒グッズとして活用する ⑤ 電源がなくても使える暖房機器を用意する
B児①（事前）	B児①（事後）
<p>暖かく快適に過ごすプラン2024年1月 重視した視点【温度・体感】</p> <ul style="list-style-type: none"> ① スポーツをする ② 重ね着 ③ 灯油ストーブを用意する ④ 事前に水（ペットボトルに入れる）を用意する ⑤ 晴れている日の場合、水を黒いタオルで包んで日光にずっと当て続ける→暖につながる 	<p>暖かく快適に過ごすプラン2024年1月 重視した視点【温度・体感】</p> <ul style="list-style-type: none"> ① スポーツをする ② 重ね着 ③ 灯油ストーブを用意する ④ マチツクを用意する ⑤ ダンボールを貼ったり、ダンボールの家を作ったりしてみる ⑥ カイロなど暖をすぐに取れるものを用意する ⑦ 電池式ヒーターなどを用意する ⑧（実現はほぼ不可能だけど）ソーラーパネル設置 ⑨ 窓を少しだけ開ける ⑩ 布を貼ってたくさん用意しておく ⑪ 新聞紙など燃えやすいものを用意する ⑫ 窓火を生み出す方法を考えたりに行って暖を取れる方法をつくっておく
【冬の快適プラン事前・事後の比較】	

子供が新たな価値を創り出すための振り返りの工夫



【A児の本時の振り返り】

A児の振り返りの記述①から、冬の最適な住まい方について、自分の考え方が変化したことが分かりました。特に、換気や湿度について、重要性を認識していなかったが、友達との話合いから、重要性に気付いたことが読み取れます。また、記述②から、環境の視点についても、温度や明るさとつながることを理解したことが分かりました。記述③から、A児の「新たな価値」としては、電力不足によるブラックアウトに至らないために、環境に対して工夫して生活したいという考えを持ったことが分かりました。

IV 1年次研究の成果と課題

1 研究の成果

- 児童の実態に応じて科学的理解重視型、「活動・体験重視型」のいずれかを位置付けて題材構成をすることにより、自分事となる学習内容を行うことにつながりました。
- 題材の中で、多様な価値観に触れる機会を位置付け、「大切な価値」の存在を明らかにしながら学習を進めたことにより、協働する生活に対する意識が高まりました。
- 視点に対する考えや話合いに対する考え方の変化を記述した振り返りをポートフォリオ形式で蓄積したことにより、新たな価値を創ることの大切さを自覚しやすくなりました。

2 今後の課題

- 「大切な価値」を認識し新たな価値を創り出していく過程において、教師の介入場面が多くなりました。今後は、児童同士の話合いによって新たな価値を創り出すための手立てを明らかにする必要があります。
- 振り返りの場面において、3つの内容を設定したことにより、表出しない変容もありました。今後は、題材における変容を見取る方法について明らかにする必要があります。

V 引用・参考文献

- 小学校学習指導要領（平成29年告示）解説 家庭編 文部科学省 東洋館出版社 平成29年7月
- 「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料 小学校 家庭 令和2年6月
- コンピテンシー・ベースの家庭科カリキュラム 鈴木明子編著 東洋館出版社 令和元年7月
- SDGsと家庭科カリキュラム・デザイン 荒井紀子編著 教育図書株式会社 令和2年6月
- 小学校家庭科 資質・能力を育む学習指導と評価の工夫 筒井恭子編著 東洋館出版社 令和2年10月
- 家庭科 生活の課題解決能力を育む指導と評価 —メタ認知を活性化する「資質・能力開発ポートフォリオ」— 岡陽子編著 東洋館出版社 令和3年10月
- ウェルビーイングの向上を目指す家庭科教育～パフォーマンス課題によるアプローチ～ 大本久美子編著 大修館書店 令和4年10月